

放射性物質全域調査及び土壌回収作業進捗状況(平成20年12月)

実施項目		実績(12月)	予定(1月)
所内 全域 調査	1. 第1次調査	(完了)	
	2. 第2次調査	なし	なし
土 壌 回 収 作 業	1. 回収計画立案	(完了)	
	2. 準備作業	なし	
	3. 回収作業	鉱石由来土壌回収場所での回収作業を継続	鉱石由来のウラン、トリウムを含有する土壌が混在しているとしてコンテナバッグに収納し保管している土壌などの仕分け作業を仮設テントで実施
	4. 回収土壌などの保管	12月31日現在、精製済ウランを含有する土壌などを1.5m ³ 角型容器で241個(注1)(200リットルドラム缶換算1,808本)回収し、地下保管庫(施設N)に保管。鉱石由来のウラン、トリウムを含有する土壌などを1.5m ³ 角型容器で828個(注1)回収し、628個を開発A棟に保管し、S棟に保管している200個はS棟を解体撤去するため仮設テントに移動	
	5. 行政庁への手続き	施設Sと作業用テントCの解体撤去手続きとして核燃料物質使用許可変更を12月17日に申請	
そ の 他	1. 環境モニタリング	空間線量当量率及び空気中の放射性物質濃度の測定。地下水の採取と分析	同左
	2. 放射性廃棄物の保管(注2) (地下保管庫)	12月31日現在、200リットルドラム缶152本、1.5m ³ 角型容器2,997個、2m ³ 角型容器828個、200リットルドラム缶換算で合計30,910本を地下保管庫(施設N)に保管。なお、地下保管庫にはNDC社が、1.5m ³ 角型容器で1,180個(200リットルドラム缶換算8,850本)を保管	

(注1) 回収作業を開始してからの累計で示します。

(注2) 「旧核燃料試験研究施設整備」のものに加えて土壌回収作業での回収土壌なども含みます。